

- 1 開催日時：令和7年6月12日（木）13：40～15：00
- 2 開催会場：みよし市立緑丘小学校 校長室
- 3 参加者：学校運営協議会委員、学校代表、市担当者等（計13名）

【学校運営協議会委員】

会長	三ツ本 隆様（地域学校協働推進委員）	三宅 敬子様（地域学校協働推進委員）
副会長	河北 圭一郎様（地域学校協働推進委員）	林 剛様（地域学校協働推進委員）
	松井 志夫様（三好丘緑行政区長）	岡部 敏和様（三好丘桜行政区長）
	伊藤 正彦様（ひばりヶ丘行政区長）	高橋 小夜子様（現PTA会長）
※欠席 上田 光宣様（前PTA会長）		

【学校代表】 校長 黒田 和秀 教頭 前川 直子

【市担当者等】 学校教育課 山内 陽二様、鈴木 啓太様、中部小学校 小澤 浩祐様

4 日程

- (1) 授業参観：13：40～14：00
- (2) 協議会：14：00～15：00

（委嘱、自己紹介、会長・副会長選任）

- ・教育方針等概要説明（校長）
- ・協議、承認

5 協議内容等の報告

- (1) 教育方針等概要説明（別紙「令和7年度第1回学校運営協議会報告・協議資料」参照）

令和6年度に成果の見られた活動を継続しつつ、①～⑤に示した活動について改善や新たな取組を行っている。

【子どもたちの実態】

- ・明るく、元気で欠席が少ない。4月欠席率1.46、5月欠席率1.47だった。まずは、子どもたちが学校に行きたいと思えるようにする。そのために学校のほとんどの時間を占める授業を充実させていく必要がある。
- ・子どもたちは、授業や行事に一生懸命取り組む。前向きに参加している。子どもが前でみんなに説明し、しっかり聞き、やることをしっかりやることもできている。

① 子どもの笑顔のために【授業】 「みどりのいっぽ」

- ・級友の「分からない」「困っている」を生かした授業づくり
- ・学校生活や学習活動で、「分からない」「困っている」を伝える力を育む
- ・ペア、グループで対話をしながら学び、認めてもらえるうれしさと受け止める優しさを価値付ける取組
- ・一人一人の子どもを多くの眼で見守り、支える教科担任制の継続
- ・デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力を高めるためのデジタル・シチズンシップ教育
- ・普段の生活ではあまり深くまで考えないことや、別々のものとして体験していることをしっかりと見つめて考え、議論する道徳科の時間、特に地域教材に取り組む（9月授業参観で実施）

② 子どもの力を生かした教育活動

- ・範を示して、行動で見せる、学んだことを下級生に伝える上級生の「自己有用感」、下級生の「目標づくり」につながる異学年交流の取組
- ・挨拶や履物をそろえるなどの整理整頓の意識を高め定着
- ・一年間を見通した委員会活動、子どもが主催する集会を計画、卒業生とのつながりを計画

ジャンプ問題

～学級の力でのりこえる！～

ひとりじゃない
仲間がいる



③ 家庭・地域との連携による教育活動（コミュニティスクール）

- ・五感で学ぶ豊かな体験 3年「柿畑見学」 4年「SDGs」 5年「田植え」
- ・地域の方を講師とした正課クラブ活動（9クラブ、年10回）
- ・地域での挨拶が課題であるが、まずは学校に来ていただいた地域の方に挨拶する経験を積み、自信につなげる
- ・中庭の畑を地域の方に担当していただき、関わる機会を設定
- ・みどりっこサポーター、東海学園大学、三好高校による授業サポート

④ 家庭・地域の笑顔のために

- ・授業支援などのボランティアを全家庭に配信（きずなメール、ホームページ等）
- ・草刈りの会、中庭畑活動を行政区回覧にて呼びかけ
- ・PTAによる学用リサイクル品の回収・無料提供への移行、親子でアルミ缶回収等資源回収

⑤ 職員の笑顔のために

- ・家庭と連携したICT機器の有効活用
- ・家庭、学校が学びの森専門相談員とつながり、教師もよりよい指導方法を学ぶ

（２）協議内容 ○：評価できる内容 △：気を付ける点、今後の課題やアイデア

△学年担任制について、今年度検討会議を立ち上げ、進めていくとあったが、今後どうなるのか。

→ まだ具体的に立ち上げて動くところではない。現在の教科担任制についても、メリット、デメリットがある。それが子どもたちにとってどうかというところを分析しながら、進めていきたい。学年担任制となると、まだ市内では取り組んでいる学校はないので、市教委とも相談しながら慎重に進めていくことになる。

担任が学年となり、もし通知表が、今回はこの先生が書く、または、学年として書く、成績も教科で見ているので、それぞれ教科で出されるといったときに、保護者としてはどんな印象をもつか。やはり子どもと先生も相性があり、一年間よい状態であればよいですが、悪い状態のとき、担任が固定とならないため、子どもも、親も、選択肢があることになるのは、一つのメリットになると個人的には思う。しかし、人との付き合い方を学ぶ場として、これが最善の解決策になるとも思えないのも事実である。ただ学校に行きたくないくらい、合わない人もいるかもしれないので、そういうときはやはり一案になると思う。

いろいろなメリットとデメリットがあるので慎重に考えていきたい。このような会議で、さまざまな立場の人が集まって話し合うことで、何かよいアイデアが出ることもあるので、自分ごととして捉えられるということがすごく大事なので、客観的に見ることも大切だが、その子のことをよく考えることがすごく大事だと思うので、こういう席でどんどん案があったら言っていた方が、先生たちにとっても参考になると思う。

これは市として進めていこうとしている取組であり、学年担任制とか教科担任制にすることは進めており、例えば専門的な音楽とか英語とかは、担任ではなく、非常勤の先生が取り組んでいる。緑丘小学校は、国語や算数など主要教科も教科担任制として取り組んでいる。1、2年生では取り組んでいないが、全国的には教科担任制が少しずつ進んでいる。たくさんの教員の目を見た方が、子どものよいところを吸い上げたり、引き伸ばしたりすることができると思う。中学校ももちろんずっとそれでやっているの、特に5、6年生の高学年は、教科担任制に取り組むことで中学校につながる。

△PTAも地域も協力できることがあれば、協力をして、子どものためによりよい方策を考えていけると思う。先生方の意見を聞いて、先生方の必要なことを、地域コーディネーターとして、地域だけでなく、もう少し大きい枠で何かできないかということを考え、取り組んでいる。

→ 紹介のあったランドデザインにあるように子どもを中心に置き、子どもと、子どもの思いが分

かる保護者（PTA）から意見を聞き、協力していきたい。

区長として2年間は、地域の代表として関わり、今年度からは地域コーディネーターという立場で、先生や児童と地域をつないでいきたい。子どもたちが、授業や行事に意欲的に取り組んでいるので、さらによりよくできるように学校と地域をつなぎ、楽しく、のびのびと生活を送れるように手伝ってきたいので、いろいろな意見や提案をいただけると助かると思う。

校外学習や出前授業に保護者も参加してほしい。参加することで、子どもと先生の関わりも見え、地域について新たに知ること、感じるがあると思う。また、子どもの安全を確保することもできる。

△ボランティアを募集しても参加が少ない。今までも、みどりっこサポーターとしても活動しているが、実施が決まっても、日程がなかなか決まらず、学校と打合せて詳細が決まった時には、仕事の都合がつかず、参加できない保護者が多い。

→ 今年度、地域コーディネーターと教頭が連携して、決まったことをホームページ、きずなメールでお知らせして、ボランティアを募集するが、仕事を休むことができないため、もっと早く知りたいという意見がある。学校だよりにて、2か月分の行事予定をお知らせしているので、保護者が参加できる校外学習や出前授業に☆印のようなマークを付けることで分かりやすくする。

○コロナ禍ではあまり見かけなかったが、最近は子どもたちが公園や地域で、近所の友達通して遊んでいるのを見るようになった。顔を知っている人がいると声をかけたりする姿もあり、子どもたちの成長がよく分かるようになった。

→ 地域での過ごし方など、道徳の学習に絡め、事故につながる行動を減らしたい。

○地域学習会についての状況を教えてほしい。

→ 案内配付が、6月末で、7月3日締め切りと考えている。参加人数が分かり次第連絡をする。

○最近ニュースにて相変わらず教職員による不祥事がある。緑丘小でないが、地域の人が学校の中に定期的ではなく不定期に人が入っているということが結構役に立っている。そういう意味でも学校開放というのは、非常に役に立つ。

6 第2回学校運営協議会日程 令和7年10月23日（木） 13：40～14：55

7 添付資料 ・ 学校運営協議会要項 ・ 「令和7年度第1回学校運営協議会報告・協議資料」